

鑱倉武鑑

初篇

二

和書門	
二七九三	類
八七函	
八冊	

内閣文庫	
番號	和 27993
冊數	8(2)
函號	151249



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

新田

同 新田家

大炊助義重五男
源經義 額田五郎

氏經 同二郎

正氏 同七郎

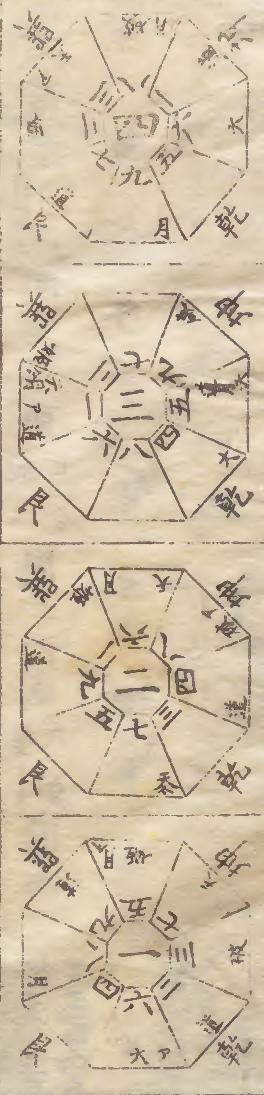
經氏 同二郎

時細 同三郎

義重六男
源義光 新田冠者

義重七男
源義佐 新田小四郎

同五戊子 廣慶火
同六己丑 同上
同七庚寅 松栢木
正德辛卯 同上



同二壬辰 長源水
同三癸巳 同上
同四甲午 砂中金
同五乙未 同上



額田五郎經義

藏書記

新田冠者義光

新田小四郎義佐

各舎兄弟兼ふまゝに裁功多し



義重七男

鎌倉正鏡

同 足利殿

陸奥守義家三男式部大輔

義國三男

源義康

足利陸奥新判官
内昇殿

義房

義清

義兼

義純

義氏

泰氏

義實

足利判官 陸奥治討死
足利左馬頭
正五位下
足利右馬頭
從四位下
廣沢判官代

白田山 足利家

上総介義兼長子

源義純

泰山 畠山三郎上総介

仁木同

判官代義實長子

源實國

仁木太郎

義俊 同又太郎



足利上総介義兼
下野

頼朝々々義家の兄ト一族ト共ニ味方ニ
中ノ平家追討ノ時ニ義兼ノ子ニ
屬シテ西國へトテ戦功あり於朝々も
一門の中ニ別ト重ントシテ
北條時政の智トシテ是より威自ラ
高ク家門次第ニ勲章ト新波細川
仁木畠山荒川今川吉良淡川石堂一色
桃井岩松等の祖也



畠山遠江守義純
武藏

義純の父義兼秩父重忠の後家ト娶
テ義純トシテ孫念の命小よりて畠山の
家ト稱セ秩父を以テ是畠山の祖也



仁木太郎實國
参河

一族の棟梁なるは足利義兼小從にて
其子孫給ふ足利の世及と云る高名ノ
家なり

鎌倉正鏡

下

細川同

判官代義實二男

源義季 細川二郎

義久 細川又三郎

家俊 上地七郎

俊氏 細川八郎

荒川同

判官代義實三男

源義宗 戸賀嶮三郎

満氏 荒川二郎

御門葉 武田家

伊豫守頼義三男新羅三郎義光二男

源義清 武田冠者刑部三郎

清光 逸見黒源太

光長 逸見上総介

信義 武田太郎

遠光 加賀美二郎信濃守

義定 安田三郎遠江守

清隆 安井四郎

長義 河内五郎

光義 田井六郎



細川二郎義季 参河

仁木とあるは義季又武勇の人也子孫管領家となる



荒川三郎義宗 武藏

仁木細川と同く義季小属して戦功すくまらざる



逸見上総介光長 甲斐

光長と信義は同胞ゆへて同日小誕生せむし入亭生あり光長の己の初生は信義の午の初生なるよりて光長を以て熱心とを頼朝が義季のそとあり味方なる富士の根方ゆへ大庭股野等と戦ひ其功多し孫のち命惜み義久の初生鎌倉の苗子とある其賞よく新成ありとあり

後

十三

嚴尊 曾根禪師
義行 奈古藏人
義遠 浅利与一
信清 八代餘一冠者

基義 逸見判官
義長 深津三郎
義俊 判官代
保義 逸見五郎

惟義 逸見太郎
久義 同三郎
義信 同四郎

同 同

逸見清光二男
源信義 武田太郎



武田太郎信義
駿河

忠頼 一條二郎
兼信 板垣三郎
有義 武田若兵衛尉
信光 伊沢五郎

先長と同日お生まれて寧生の才に於細々
義長の時「族と共お初めの戦い小切あり
就中富士の指方あり長田又子と行とり
或へ平家の大軍富士川お渡向のとき
一番お駿河國に後にお身お移り
おふよりて置居も大名の中お並びなると大身也

一條 同

太郎信義長子
源忠頼 一條二郎



一條二郎忠頼
甲斐

行忠 神利二郎

行義 東條二郎
上條三郎
頼安

又信義と同日お生まれの合戦お平柄渡
あるお庄一門といひ大身といひ人是を
お入ト下るまう威勢と振へのあまり
叛逆の因えあるおより元暦元年六月
十六日官中おあひて討とりべきお上御孫
お経小余おせしるお経猶後するおより
天野遠景別の信を奉りて忠頼を
誅す

鎌倉正鑑

二日

板垣 同

太郎信義三男

源 兼信 板垣三郎

頼時 同四郎

頼重 同六郎

初るゆゑ不違をまゐりたり是大任之門郎従の差別あまらざる
兼信一門の威ふちりて不遜と云ふべし彼が才器いんぞ実平
小乃らん兼信がごころの戰場に向いて命を捨らばざるの事
は愛敬をもちて子孫あつて武田の披官とあまらり



板垣三郎兼信

甲斐

武田 同

太郎信義三男

源 有義 武田右兵衛尉

有信 吉田太郎

信盛 武田為太郎



武田右兵衛尉有義

甲斐

武田 同

太郎信義四男

源 信光 武田大膳大夫

伊次五郎

朝信 武田太郎

信忠 同悪太郎



武田大膳大夫信光

甲斐安藝

始に伊次五郎と号し智勇兄弟の
能えて武功多し於朝々の由りて
一家の棟梁とあまらり後甲斐國

源 信光

信政 武田伊豆守
 信長 一條六郎
 信隆 岩崎七郎
 信繼 石橋八郎

加賀美 同

源遠光 逸見清光三男
 加賀美二郎
 信濃守

光朝 秋山太郎
 長清 小笠原左京大夫
 正四位下
 光行 南部三郎

信濃守遠光長子
 源光朝 秋山太郎

光定 同小太郎

小笠原 同

信濃守遠光二男
 源長清 小笠原左京大夫
 正四位下信濃守

長經 小笠原彈正少弼
 長光 八代四郎
 時長 伴野兵部少輔

つりり又安藤の守護とある子孫日
 退く盛んあり

信基 馬淵九郎
 光信 武田十郎



加賀美信濃守遠光
 信濃

武勇拔群めて弓馬の遠くあり
 合戦小共功多し子孫繁昌と秋山小笠
 系南部於る八代伴野大井友成昭海大倉
 高畠下條田村上野一宮益田丸毛山内津毛



秋山太郎光朝
 甲斐

又遠光の功ありて我功ありけし子孫ハ
 武田の被官とある



小笠原左京大夫長清
 信濃阿波

長清京都のりて佐殿の義兵公
 老母の病を偲りて東國(馳下)駿列
 昔瀬川の舟陣めて我朝をふとら
 親を武勇他小とえてたのびま

兼信式益

十六

鎌倉正金

弓馬の達人なり子孫お染宗しく代々
著名の人あり

朝光 大井太郎
行長 藤崎十郎
清時 鴨海金十郎
清隆 大藏三郎
長隆 大倉与一
行信 同 又三郎

南部 同

信濃守 遠光三男
源光行 南部信濃三郎

實光 同三郎

安田 同

逸見 清光四男

源義定 安田三郎
遠江守

義資 安田越後守
義秀 同二郎
忠義 志磨四郎
貞長 逸見孫四郎



南部 信濃三郎光行

又と共小所々の軍小戦功あり其子孫
奥羽不仕しく武名なき



安田 遠江守 義定

朝朝々々其の始より一族とあり
軍忠と云々一本を或の平家との合戦
ふる名救多たふふより遠江の國も
小佐ト嫡子義資ハ越後守と成る門
の中ふもぬびるさ大なるしガ義資
ふ是ゆて山内の女房小籠虫とありしを権
宗景季事は知れずは後者小籠は不具
を聖なり加茂景藤小命とてて聖とて
よりて義定縁叛の企ありて建久四年八
月十九日縁せらる時ふ弟と平一

鎌倉正金

安井

同

逸見清光五男

源清隆

安井四郎

隆義

秋山四郎太郎

隆頼

二宮二郎

河内

同

田井

逸見清光六男

源長義

河内五郎

清光七男

源光義

田井五郎

曾禰

逸見清光八男

曾禰禪師

嚴尊

遠頼

同太郎

長資

同二郎

朝資

同五郎

奈古

同

源義行

奈古藏人

行信

同三郎

義經

同六郎



安井四郎清隆

甲斐

又小名三郎にて戦功ありけ子孫二宮と稱す



河内五郎長義

對馬

武勇の人あり平家亡びて後對馬の守護とありて異國の防禦を命ぜらる



曾禰禪師嚴尊

甲斐

知りの出家すとていども武門を忘れざり一族と共小深倉屋の内味方あり戦功あり



奈古藏人義行

甲斐

又兄ふちとて戦功あり

鎌倉正金

淺利 同

逸見清光十男

源義遠 淺利与一

知義 同六郎

清光十男

源信清 八代餘一冠者

御門葉 佐竹家

新羅三郎義光嫡子

源義業 進士判官代

昌義 佐竹信濃守

義定 山本遠江守

義仲 式部丞

源尊 法師

忠義 佐竹太郎

義弘 同藏人

義宗 同三郎

隆義 同常陸介



淺利與一義遠

甲斐

義遠戦功救済の建仁元年城資盛
戦後の國中叛逆の時討ちの大將
佐々木盛綱小太刀の武勇を以て
賢盜が伯耆板額女勇力く小太刀を
精兵の強弓之味方是が為小太刀を
と藤沢清親板額がた右の眼を射
て是と搦ると義遠板額が武勇
拔群たる小太刀を御家の小太刀
といひ討ち討ちとす一々中國小太刀



佐竹別當秀義

常陸

又隆義常陸守位とて大身也秀義ハ
兄義政と云ふ自意の意あるゆゑ
縁合小太刀と云ふ大軍を以て
佐竹と付り上総女房常義政を
駈けて害を秀義ハ又金砂の飯小
太刀一々廣常計を以て及り居る
秀義後継たるも其の真なる者
其後頼朝々小太刀の始て其法
國山田の々の地取とある程
同族のつり子孫絶業を

鎌倉御成金

義季 佐竹藏人
親義 田田冠者
昌成 佐竹冠者

義政 佐竹太郎
秀義 佐竹別當
義茂 同左衛門尉
助義 同八郎
義清 稻毛九郎

同 山本家

判官代義業二男
山本遠江守

光祐 同二即伊賀守
義兼 柏木判官代
義春 早水判官代
胤義 豊後冠者
宣義 真島冠者

宣熱 同太郎

義澄 山本又二郎

頼經 同右近將監
頼直 同左近將監

義良 佐竹判官代
宗信 同内當六郎

義繁 佐竹別當
秀繁 常陸介
義資 同左衛門尉
公清 同八郎三郎
上有智四郎



山本若狹守義經
近江

義經の事
義經は遠征に及む義経の戦い
一族多く存人行家小徳ひる徳の
國由て平あつて戦ひ和あつて
付たすもの多し

義明 箕浦冠者
義弘 山本左衛門尉
義高 錦織冠者
義成 大島冠者
頼高 河内冠者

鎌倉御成金

同

平賀家

新羅三郎義光三男

源盛義

平賀刑部四郎
左兵衛尉

有義

同二郎

安義

佐々毛三郎

義信

武藏守

惟義

大内右衛尉

敦義

大耳二郎

資義

金澤小二郎

有資

平賀右兵衛尉

武藏守義信嫡子

源朝政

右衛門尉武藏守

朝經

平賀四郎三郎

朝村

同飛驒守

義信二男

源朝信

平賀三郎
号小野

時頼

小野藏人

義信三男

源遠平

小早川右兵衛尉



武藏

平賀武藏守義信

平治の合戦の義朝より武勇
とあり又於朝の義を奉ると
史記に下りてある所の戦
軍功多し市原の陸一とありて
京の守備を命ぜりて義
朝の如く於朝の義を奉ると
事成敷其の如く於朝の義を奉ると
於朝の如く於朝の義を奉ると
義信の如く於朝の義を奉ると



平賀右衛門尉朝政

朝政は北條朝政の後妻牧の如く
息女と室とす其の如く於朝の義を奉ると
あく其の如く於朝の義を奉ると
忠の如く於朝の義を奉ると
姑の如く於朝の義を奉ると
義の如く於朝の義を奉ると
おの如く於朝の義を奉ると
企の如く於朝の義を奉ると
害の如く於朝の義を奉ると

轉當

上

鎌倉正金

大内 同

平賀盛義四男
大内相摸守

源惟義
駿河守

惟信
左衛門大夫

惟親
左衛門尉

家信
大内兼入
木津律師

義海

義行
小野太郎

惟時
大内木工助

惟忠
左衛門尉
帶刀長

御門葉 石河

義家六男

源義經
右兵衛尉
伊賀守

義基
石川武藏守

義資
同判官代

義廣
錦織冠者

義兼
石川判官代

鎌倉正金



大内相摸守惟義
信濃

兄義信は小孫舎小孫りて中園西
海の軍小孫舎小孫り戦功ありしより
右衛門尉小孫りしより又孫ありしより
孫伊賀守のち後藤小孫りし
頼朝々の忠告他小孫りし信濃小
孫居たり息家信の朝政ふし
孫ありしより自害すしより
孫の男子忠告をききて孫連
孫あり



石川判官代義資
河内

義資高倉の官の令旨を蒙り一族と
共謀て平氏を討んとし頼朝々東
國出て義兵を率るとして義資も
本國河内出て旗をよび依て平家
加賀と大將として勇向けたり我
義基義廣の討死しそも携と
ありしより死しよのち孫舎小
孫り頼朝々小孫りしより河内源氏の
孫ありしより孫あり

鎌倉正金

同 毛利

義家七男

陸奥六郎

源義隆

賴隆 毛利藏人大夫 号西阿

光廣 同右兵衛大夫

親光 同左近藏人

經光 同藏人

吉祥丸

御門葉 大田

攝津守頼光四代從四位下 兵庫頭仲政嫡子

源頼政 從三位 兵庫頭 号頼圓七十六

仲細 正五位下 伊豆守

妻細 太夫判官

廣細 太田駿河守

女子 二條院讚岐

右細 伊豆右衛門尉



毛利藏人頼隆

相模

父義隆平治の乱に義朝中從の軍駈きて
義朝と同日に於て死する時比屋山に於て
討死せし時於て瀆せられて又十日也されども
男子たる加下流の國に流るる於朝々房及
より下流へ至りて又十日葉常胤具して
始て又常胤の命を以て中を於朝々感下
りて幸胤が命を以て常胤に於て對面
思遇流るる其後三浦義時自
元平六月春村に謀殺せられたり又子



大田駿河守廣細

駿河

祖父頼政又仲細復兼總と始て治ふあり
討死の後ひそかに東國へ下りて於朝々
考ごひ武功勲多かり是よりて駿
河守に任ぜられ源倉左の西号をもり
りしが建文元年十二月頼朝々上洛の
時に於て小候に内侍の召逐電を定
是とて之を後醍醐朝へ出て出家すと妹
二條院小はて後波とりの名歌多
沖の石の波波と称するをけ人地是も
頼政仲細の号小名譽ありあり

鎌倉正金

同 大河内

頼政二男

源兼細 太夫判官 檢非違使

顯細 大河内源太

同 小國

兵庫頭仲政二男 小國藏人右馬頭 丹後守

正細 同右馬頭

女子 宜秋門院丹後 桃園右兵衛大夫

同 深栖

仲政三男 源光重 深栖陵助

重清 松崎二郎

頼重 堀三郎

仲重 深栖藏人

御門葉 多田

攝津守頼光六代嫡流

源頼盛 多田攝津守

行細 同藏人

雙會式監



大河内源太顯細 尾張

父兼細行死の後頼朝を奉じて 武功多し



小國丹後守頼行 越後

頼政の一家を以て鎌倉を奉りて 頼行の 息女を娶ひ秋門院の丹後と号して 奉りて 丹後とよみ



深栖陵助光重 上野

光重(武勇)のこゝろを以て 頼朝を奉りて 人々の義經奥及下向のこゝろに 金商人 三條の橋を以て 奉りて 人々の 子息は頼朝を以て 武功あり



豊島藏人高頼 攝津

父頼盛源氏の嫡流として 代々攝津守 小国を以て 多田院の源氏と 稱す

録金

朝實

多田判官代

高頼

豊島藏人

頼基

野頼三郎
多田太郎

資國

能瀬藏人
豊後守

御門葉山田

經基王二男武藏守滿政六代
源重遠 浦野四郎信濃守

重直 山田先生河邊屋者
重頼 葦敷三郎
重房 小河三郎

同 井上

河内守頼信三男乙葉掃部助
頼季五代桑洞五郎清長男

源忠長 井上太郎

長直 同太郎
經長 同二郎
光朝 同三郎

同 高梨

頼季五代 高梨判官
源頼高

頼平 同小太郎

雙合式監

嫡子信濃の頼基成親の孫又ゆきて
珠ヶ谷の命合孫信重の孫又ゆきて
人より信重の孫信重の孫又ゆきて
信重の孫信重の孫又ゆきて
信重の孫信重の孫又ゆきて
信重の孫信重の孫又ゆきて



山田大和守重弘
尾張

又重遠の長家朝臣の孫より尾張國浦
野の信重と重弘始孫人行家小属
重房より平家と戦ひ敗軍して一族



井上太郎忠長
信濃

代々信濃國小治と武勇の因えあり
子孫忠長



高梨判官頼高
信濃

始々忠長より義多の時より信重より

七

鎌倉立金

義高 関山五郎

同 仁科

頼季五代

源盛宗

盛朝

仁科太郎

仁科二郎

重季 同 小二郎

重清 小川又一郎 左兵衛尉美濃討死

重助 生津太郎

重高 葦敷二郎

重義 同 三郎 美濃討死

重信 同 四郎 討死

御同流 片桐

經基至五男下野守滿快六代 二即太夫爲細男

源景重 片桐小八郎太夫

爲安 同 太郎

不之の戦ひは功をたつし本多後立び
工後源會後ふけりて軍功あり



仁科二郎盛朝

信濃

又盛朝の本多後小佐ひて戦功あり
登朝の豫會後ふけりて頼季の縁
けりしも本多小坂窪順田安本田
佐入るる一族教多あり

重満 山田太郎 伊達冠者 重義 泉太郎

重親 同 彦五郎 美濃討死 承聖 山徒少僧都

重家 越後二郎 同 朝 重朝 抱合冠者

重義 白川四郎 鏡冠者 重廣 同 二郎

重信 越後五郎 足助左兵衛尉 重俊 小島太郎

重長 同 六郎



片桐太郎爲安

信濃

又景重平治の合戦小佐朝ふて
武勇とありしを岩間飯もけり同流之
爲安も又武功あり

鎌倉正金

同 二柳

滿快六代村上源太國高男

源國忠 二柳三郎大夫

國平 夏目左近將監

同 成田

滿仲二男大和守頼親五代

石川三郎基光男

源光義 澤田太郎

光治 成田二郎

同 土方

頼親七代宇野三郎義治男

源季治 土方太郎

同 大森

宇野義治男

源茂治 大森三郎

治貞 同三郎

頼行 宇川四郎



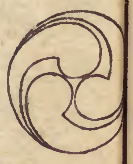
二柳三郎大夫國忠 信濃

頼朝公はては信濃國の郷の地頭職と
あり是より夏目と号すと武勇の人と



成田二郎光治 大和

頼朝公は從いて功あり後小栗濃國市
橋の庄の地頭職とあり是より武勇の
人なり



土方太郎季治 大和

頼朝公はては武功あり



大森三郎茂治 大和

頼朝公は親治大和守宇野三郎義治男
の孫なり後保元合戦に親臨
し條の爲と共小栗濃國の地頭と
あり平の基盛と戦ひ生捕きて後赦
免せしる茂治は頼朝公はては

庚子年

鎌倉正金

同 村上

河内守頼信二男肥後守頼清

三代村上判官代爲國男

源經業 村上右馬允

頼時 同左衛門尉

同 同

頼清三代顯清男

源仲清 村上三判官

親清 村上千田藏人

清時 千田修理亮

村上左衛門尉頼時
信濃
頼朝の愛臣也奥及征伐爲小戦功

村上三判官仲清
信濃
頼朝の一族なり頼朝を介して仲清の兄
安信の疾四郎美光の祖也

同 同

公事奉行				問註所			
別當	大膳大夫大江廣元	侍所別當	和田左門尉美盛	別當	二階堂主計允行政	寺社雜事	右京進 李時
案主	鐵田新藤二俊長	京都守護	右兵衛督能保卿	執事	岩平小中太光家	鎮西奉行	天野藤 内遠景
掃部頭	親能	和堀原	大友左近將監能直	知家事	中宮大夫屬三善康信	實朝公侍所	
筑後權守	俊兼	別當	北條式部太輔泰時	軍人	佐康清	御家奉行	二階堂山城判官行時
文章生	宣衡	同	三浦左門尉 茂村	民部丞	盛時	同	江判官 能範
左京進	仲業	御出已下御所中	伊賀右兵衛尉 光宗	豐前介	實俊	御家人供奉野復	日下權定

Handwritten text on aged paper, possibly a ledger or account book. The text is written in a cursive style and is organized into columns by vertical lines. The paper shows signs of wear, including dark smudges and ink bleed-through from the reverse side. The text is written vertically, reading from right to left. The characters are somewhat faded and difficult to decipher due to the age and ink bleed-through.